

表題	球磨地域における抑制ハウスメロンの品種選定と仕立て法	機関	農業研究センター 球磨農業研究所
概要： <u>ハウスメロンの抑制栽培では「アンデス」が気象変化に適応でき、品質・収量も年次による較差が少なく、栽培が容易であった。仕立て法は1蔓1果取りを基本とし、草勢の維持に注意しなければならない。</u>			

研究のねらい

果実肥大が適度で、収益性の高い品種の選定及びその仕立て法と着果個数などを明らかにし、球磨地域の気候に適応した抑制ハウスメロン栽培を促進する。

研究の成果

1. 選定した品種と特性

「アンデス」

- (1)交配から収穫までの所要日数が50日前後と短い。
- (2)各年度の気象条件に関係なく草勢は中位で栽培が容易である。
- (3)果実は1500g程度と大玉になりやすく、果形も安定している。
- (4)ネットは盛り上がりはないものの、密度は高くネットの発現は安定している。
- (5)糖度は年次較差が少なく平均して高く、個体間差も少ない。

2. 仕立て法

- (1)1蔓1果取りは草勢の維持が容易で、品質・収量が安定する。
- (2)1蔓1果取りの場合、1株2本仕立てでは秀品・優品率が高くなり、1株3本仕立てでは植え付け本数が少なくて済む。

普及上の留意点

1. 無加温栽培が原則であり、この場合の播種限界は8月15日とする。
2. 定植後は活着をスムーズに行い、交配までに根を十分張らせる。
3. ネット発生期の極端な蒸し込みは避け、草勢維持に努める。
4. 立体栽培メロンよりも台風対策はしやすいが、台風通過後は速やかに病害対策を行う。

表1 品種特性
表1 品種特性

年 度	品 種	熟 期 (日)	1果平均 果 重 (g)	果 形 比 (縦高/横径)	収 穫 時 草 勢 ¹⁾	糖 度 (Brix)			ネ ッ ト ²⁾
						果 梗 部	胎 座 部	花 落 部	
7 年 度	アンデス	52.6	1243	0.94	3	14.6	15.4	14.4	2.9
	キヌミ-163	56.0	1331	0.99	5	14.9	15.7	15.1	3.7
8 年 度	アンデス	49.4	1581	1.00	3	14.6	15.6	15.7	3.0
	キヌミ-163	53.9	1774	1.10	3	13.9	14.8	14.4	3.1
	ラブコール	52.1	1658	1.08	3	14.6	15.2	14.3	3.1
9 年 度	アンデス	47.8	1659	0.98	3	16.2	16.6	16.4	3.0
	キヌミ-163	53.6	1939	1.03	4	15.4	15.5	15.5	3.7
度	ラブコール	52.9	1732	1.06	3	15.4	16.0	15.6	3.2

※収穫時草勢¹⁾、ネット²⁾：1（弱い）← 3（中位）→ 5（強い）

7年度8月1日播種：ガラス温室、8年度・9年度8月1日播種：ビニールハウス

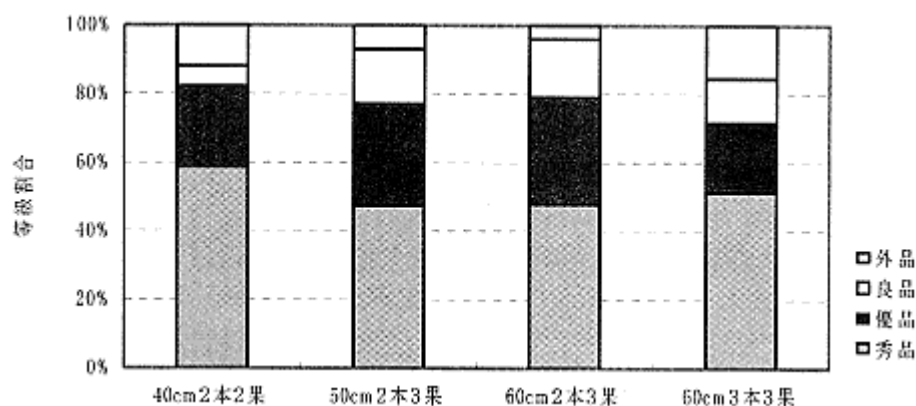


図1 仕立て法別の等級割合（平成9年度）

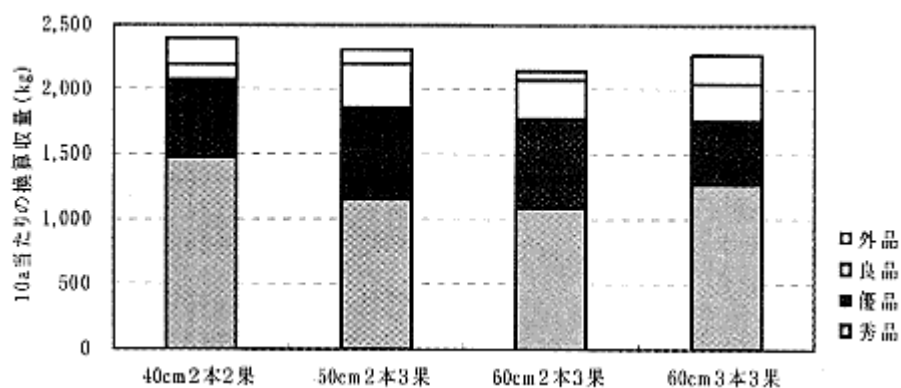


図2 仕立て法別10a当たりの収量（平成9年度）